

2010年1月

## *English Botanical Art*

英国ボタニカル・アート 美しき植物の記録

2010年4月24日(土) ~ 5月30日(日)



《スピラエア・ベッラ、ペリプロカ・グラエカ、アステル・シビリカ、ラッパズイセン》 19世紀  
『ボタニック・ガーデン』

【本件に関するお問い合わせ】

ニューオータニ美術館

〒102-8578 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート6F

TEL 03-3221-4111 ・ FAX 03-3221-2988

<http://www.newotani.co.jp/museum>

○ニューオータニ美術館(千代田区紀尾井町4-1 館長 大谷和彦)では、2010年4月24日(土)より5月30日(日)まで「英国ボタニカル・アート 美しき植物の記録」展を開催いたします。

○古代より薬用・食用の識別の目的で描かれてきた植物画が、アートとして成立する土台となったのが大航海時代でした。航海によって世界各地から珍しい植物が持ち込まれ、特にエキゾチックな花や草木への関心が高まっていきました。

○17~18世紀には、王侯貴族や大商人を中心に園芸趣味が定着していきます。これらの貴重な植物は、植物学者や博物絵師によって詳細に記録され、エングレーヴィングという技法の銅版画で仕上げられました。緻密で美しく描写されたそれらは、当時盛んに出版されるようになった植物図鑑の挿絵や紹介資料として珍重され、富裕層に広く親しまれました。

○18~19世紀になるとガーデニングの流行とともに、植物画はやがて学術資料としての役割を超えて、その美しさから美術的鑑賞の対象ともされるようになります。

○その後、写真製版技術の発達によって挿絵としてはあまり用いられなくなりますが、熟練職人によって刻まれ、手彩色で仕上げられた作品は、現代もボタニカル・アートとして大きな魅力を放っています。

○本展では、ウィリアム・カーティスが出版した『ボタニカル・マガジン』、ベンジャミン・モードが出版した『ボタニック・ガーデン』や『ボタニスト』などの植物図鑑に掲載された作品を中心に、18~19世紀にイギリスで制作されたボタニカル・アートの一端を紹介します。

○さらに植物画だけでなく、バードウォッチングを愛好したイギリスならではの鳥類図、ロマンティズム溢れる風景画などを併せて展覧し、近代博物学が果たした役割を確認していきます。これらのオリジナル版画作品こそ、現代に通じる情報化社会の出発点といえるでしょう。

植物図譜の意味



ギリシャ時代、人間にとって植物は、食料の貴重な供給源であると同時に、さらに切実な用途として薬用植物の活用がありました。最古の植物図はこの時代に描かれ、後世の写本などによって伝えられています。

しかし植物画がマスメディアとして盛んに描かれ、出版物を通して一般に普及するのは近代印刷技術の変革を待たなければなりません。本章のグループには、庭や路傍、草地などで目にする植物が数多く含まれています。日常生活の中で見たことのある植物の姿が、独立した画像として切り取られ、本の1ページにそれを見るとき、植物画は広い意味で生活文化に組み込まれたことを示唆しています。

《ドイツスズラン》 19世紀  
『イングリッシュ・ボタニー』



《ロサ・ルビギノーサ》 19世紀  
『イングリッシュ・ボタニー』



《ワイルドストロベリー》 19世紀  
『イングリッシュ・ボタニー』

装飾的な要素



大航海時代を通じてヨーロッパ諸国は未知の世界からさまざまな文物を持ち帰りましたが、中でもイギリスは植物を集めることに並々ならぬ情熱を傾けました。

そして王侯貴族から富裕層を中心に珍しい植物図鑑が珍重されるようになり、ガーデニングの流行とともに植物画が一般に広がっていきます。そこで植物画は、資料としての正確さばかりではなく、目を楽ませる鑑賞の用途を求められるようになりました。本章には、科学的資料の役割を超えて、美を追求する装飾絵画へと向かう植物画の一群を紹介します。

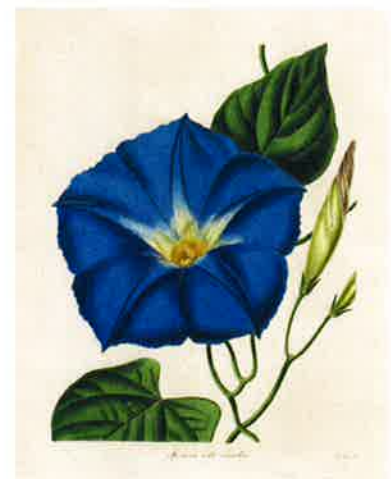
《ラヴァテラ・トリロバ、ルピヌス・オルナトゥス、ピレトルム・ウリギリスム、リナリア・トリオルニトフォーラ》 19世紀  
『ボタニック・ガーデン』



《ダフネ・コリーナ》 18世紀  
『ボタニカル・マガジン』



《フロックス・ドルムモンディ》 19世紀  
『ボタニスト』



《セイヨウアサガオ》 19世紀  
『ボタニスト』

## 鳥 類

バードウォッチングを好んだイギリスでは、植物図鑑とともに鳥類図鑑の出版も盛んに行われています。本展に出品されている『英国鳥類図鑑』は木口木版で図版が制作されています。



《アカゲラ》 19世紀



《オナガガモ》 19世紀

## 風 景

簡単に旅行のできなかつた時代の人々にとっては、遠い土地の風景や歴史的建造物などは生涯見ることのできない光景でした。しかし本の出版が一般化して以来、それらの風景は、植物画と同じように絵として誰でも知ることができるようになり、風土記として広まっています。

こうした風景の中には、有名画家の描いた絵画を版画職人がおこしたものもあり、異国の風土を伝えるばかりでなく「画集」の役目を果たしたものも少なくありません。

## 【展覧会概要】

- 1) 展覧会名称 英国ボタニカル・アート 美しき植物の記録
- 2) 会 期 2010年4月24日(土)～5月30日(日) 稼働日数33日
- 3) 主 催 ニューオータニ美術館
- 4) 後 援 日本パウル・クレイ協会
- 5) 会 場 ニューオータニ美術館  
東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート6F  
Tel:03-3221-4111 Fax:03-3221-2988  
(地下鉄 銀座線・丸の内線「赤坂見附」駅D出口、 有楽町線・南北線・  
半蔵門線「永田町」駅7番出口よりいずれも徒歩約4分)
- 6) 開館時間 午前10時～午後6時(ご入館は午後5時30分まで)
- 7) 休 館 日 月曜日(但し5月3日は開館)
- 8) 入 館 料 一般¥700、高大生¥500、小中生¥300 (20名以上の団体は各¥100割引)  
宿泊客無料
- 9) ギャラリートーク 5月8日(土)、22日(土) 午後2時～ 当館学芸員
- 10) 出 品 作 品 植物学者・園芸家としてよく知られるベンジャミン・モーン(1790-1864)による植物図鑑『ボタニック・ガーデン』『ボタニスト』やウィリアム・カーティス(1746-99)が出版した『ボタニカル・マガジン』を中心に、当時イギリスで制作されたエンブレイヴィングに手彩色を施したボタニカル・アートに鳥類図、風景版画を合わせ約110点を展示。